



2学期のスタート!!!



2学期がスタートしました。子どもたちの元気な声が響いてこそこの“学校”であると、笑顔を見ながら実感しています。

さて、今年の夏は“災害級の暑さ”ということでしたが、9月を迎えてもお、厳しい残暑が予想されています。その様な中、子どもたちの体調に留意しながら教育活動を進めていく大切さを、改めて痛感しています。今学期も、保護者の皆様のご理解とご協力の程をよろしくお願いいたします。

“熱中症”から命を守るために



7月下旬、山形県で部活動を終えて帰宅途中であった中学生が熱中症とみられる症状で病院に搬送された後、死亡するという悲しいことがありました。また、8月下旬には、北海道で体育の授業を終えた小学生が教室に戻る途中に熱中症とみられる症状で病院に搬送され、その後死亡するという悲しいことがありました。酷暑の夏ではありましたが、朝「行ってきます!」と家を出て、その後、帰らぬ人となってしまったという事実、ただただ深い悲しみと無念さを感じるばかりです。

本校では、熱中症から子どもたちの大切な命を守るため、以下のような対策を取っています。

○熱中症に関する子どもの特性を理解

熱中症は、体温が上昇して体温調節機能のバランスが崩れ、体内に熱が溜まってしまうことが原因です。子どもは大人に比べて体温の調節機能が未発達（発汗機能が弱い＝体温を下げる能力が低い）であり、体内に熱がこもりやすくなります。また、子どもは体重に対して体表面積が広いので、温度や湿度などの影響を受けやすくなります。このような特性を理解し、特に屋外で活動する際は注意を払っています。



○暑さ指数【WBGT】による適切な判断

近隣観測地（我孫子）と活動場所（例えば校庭） どちらか33℃以上

又は双方ともに31℃以上

⇒ 運動を伴う活動を中止します。

※数値が規定以下でも危険となる可能性を感じた時は、中止の判断をします。

体育の授業などを日課表通りに行わないこともありますので、予めご了承ください。



○活動中は、確実な体調確認（声かけ、観察など）と、こまめな水分補給を行います。

○下校前に、水筒中身の残量を確認、空だったり少なかったりした場合は、水道水を入れさせます。

※登下校中の水分補給に関する安全指導（歩きながら飲まない、安全な場所で立ち止まって飲む）

○学校で体調不良が見られた場合は、回復後でも家庭連絡させていただきます。

※体内の熱が抜けきらず、時間差で発症する可能性があります。

“学びの場”を守るために・・・お願い

一足先に2学期を迎えた自治体で、新学期早々に学級閉鎖となった学校があるとの報道を目にしました。依然として、新型コロナウイルス等の感染症は続いているようです。

○学校にウイルスを持ち込ませないよう、体調不良の際は登校をお控えください。

○様々な感染予防のため、解熱しても24時間はご家庭で休養をとってください。

